

◎議長（佐藤平一郎君）

次、27番武田英三君

〔27番武田英三君登壇〕

◎27番（武田英三君）

すでに通告いたしておきました原子力発電所並びに自衛隊誘致につきまして、清和会を代表いたしまして質問を申し上げます。

昭和44年度の施政方針演説の冒頭に原子力発電所誘致並びに自衛隊誘致について、市長の勇氣ある決意を披瀝されましたことは、いかにこの問題が柏崎市の発展につながる重大な問題であるかということをお考えになられた結果であろうと推察申し上げます。その英知と開拓精神こそ、転機に立った柏崎市を救う唯一の道であると確信し、賛意と惜しめない拍手を送る次第であります。（「そうだ」と呼ぶ者あり）

いまや、熱エネルギー時代の革命児である原子力発電は、わが国では十数年前から研究され、すでに東海村において稼働されております。世界では77が稼働しており、昭和51年には200カ所を数える数にのぼろうとしています。いまや、石油・石炭にかわってウランを原料とする原子力に新しいエネルギーを求める時代が遠からずやって来るとというのが学者の意見であります。

わが市におきましては、昭和42年より話が始まり、昨年3月に全員協議会におきまして、原子力発電所誘致研究委員会が構成され、まる1年熱心な研究が進められ、去る2月17日の第14回委員会におきまして、わが柏崎市に原子力発電所を誘致すべきものと議決したということを陰ながら聞いております。まことに長期にわたり、しかも専門的なことまでご研究された委員の皆さん、心から敬意と感謝をささげるものであります。まことに長い間、ごくろうさまでした。

しかし、一部には、原子力などというと、原子爆弾などと同じ視され、危険きわまりないなどの声がありますが、去る2月18日市民会館ほか2カ所におきまして宮永工学博士、亀田農学博士の原子力講演会や、私たちが直接東海村にまいって原子炉の安全性、ウランの安全性など、また原子力発電所ができた場合の特典などを聞きました。これを要約いたしますと、原子炉の構造上の安全性については、関東大地震の3倍以上の強い地震にも耐え得るように設計され、建設されている。また、かりに原子炉に重大な事故が起きたとしても制御装置が働くように、三重、四重の安全装置が施されているので絶対に危険でない。ウランの安全性につきましては、いままで世界じゅうで、平和利用の原子力発電所、あるいは原子力研究所の原子炉で爆発が起きたことはない。その点、原爆とは全く異なっております。公害については、原子力発電所より放出される気体及び液体は、定められた安全基準の何分の1である。自然界の空気中、あるいは水中にある放射能の何十分の1という薄いものとして、大気また海中に放出されるので、人体、家畜、植物に対する害は他の産業企業より非常に少なく、すなわち、原子力発電所には公害はほとんど考えられないとしております。また特典といたしましては、建設規模にもよるが、約2億円くらいの固定資産税が毎年入る。なお、工業港の促進がはかられる。また、関

連産業が起きて人口が増大する。その他、道路の整備などが促進される。また、観光客がたくさん見学に来るなどの特典がある。以上の点が、私の知り得た点であります。したがって、原子力発電所を建設することにより、大工場誘致の突破口となり、柏崎の発展が約束されることは間違いないと思います。

また、自衛隊誘致委員会では、去る 1 月 26 日、田中幹事長の紹介状を持って小幡防衛事務次官、宍戸防衛局長を訪問した結果、柏崎に有望だという確認を得てられました。

いまや、市を展望いたしますと、市長の努力にもかかわらず、人口は年々減少し、ここ 10 年間で約 1 万人も減っています。かつては石油の町として知られたが、帝石、日石、資源開発もなくなり、このまま推移すれば、柏崎は一体どうなるのでしょうか。まことに暗たんたるものがあります。このときにあたり、原子力発電所並びに自衛隊誘致は、柏崎の発展に光明と希望を見出したと言わざるを得ません。かかる重大なときにあたり、われわれの議員任期もあと 2 年で終わろうとしております。しかし、柏崎の市勢は永遠に続くものであります。われわれ市政に携わるものとしたしましては、われわれの任期中に市勢の発展を期す偉大なる行政を残したいと念ずるのは、市長以下議員一同の願いでもあり、また市民の願望でもあらうと思います。

かつて、町の賛否を 2 つに分けた上水道のように、断固と戦って成功させた西巻町長の遺業は永遠にたたえられるでしょう。われわれの手本として見習わなければなりません。また、かつては、柏崎から上越に通ずる刈羽鉄道が計画された時代がありました。そのころは、駅や鉄道はなるべく自分の土地より遠く離してつくれという時代でありましたので、一部有力者の反対で完成しませんでした。いまにしておもえば、まことに残念でたまりません。もし、その時代に鉄道ができておたらどうでありましょうか。今日の長岡をしのぐ柏崎市が生まれていただでしょう。このように政治というものは、10 年、20 年先の将来を考え、悔いを千載に残さぬように、常に勇気と決断を持って事に処せなければなりません。

そのためにも市長は、反対する諸君とひざを交えて話し合いの場を設け、できる限り摩擦を避けるべきだと思います。その上でどうしても話し合いがつかなければ、市勢伸展のために、政治生命をかけてもやりぬく決意が必要であります。

いまや、中央では総理・総裁を目指す偉大なる政治家田中幹事長が厳然としていられ、また柏崎市長には、県下にも第一人者をもって任ずる敏腕の政治家小林市長であります。まさに千載一遇の好機が到来したといっても過言ではないでしょう。くしくも原子力発電所並びに自衛隊誘致が持ち上がり、柏崎の運命を決する重大なる問題が生まれてきたことは、われわれ市政に携わる者への天が与えた試金石でなくて何でありましょうか。

これが成功させるには、まずタイミングが必要であります。いずれも、相手方があり、予算がある仕事であります。市長が原子力発電所誘致については納得を得た時点において、県当局を窓口にして誘致に踏み切ると言われておりますが、去る 3 月 4 日県議会本会議において、民社党内山議員が柏崎へ原子力発電所設置の一般質問がなされ、知事の答弁を求められております。知事は、柏崎から何とも言って

こないで、言ってこえば誘致に努力すると答えておられます。私は賛否の結論は相当急を要すると思いますが、市長のお考えをお聞かせ願いたいと思います。

また、自衛隊問題、市民のご協力が得られるならば誘致いたしたいと考えておると言われておりますが、この問題も誘致特別委員会が誘致すべしと結論を出して市長に申し出ております。議会は市民の代表であります。したがって、市長に誘致をさせよという以上は協力も惜しまないつもりであります。この点、市長はどのように判断されておるか、お聞かせ願いたいと思います。

以上、原子力発電所誘致問題並びに自衛隊誘致問題に関し勇気と決断を持って、千載一遇の好機をのがさぬように、再度、絶叫して質問を終わります。（拍手）

◎議長（佐藤平一郎君）

小林市長。

〔市長小林治助君登壇〕

◎市長（小林治助君）

武田議員さんから非常に適切な、しかも柏崎市の将来のために熱意あふれるご意見を交えてご質問をいただいたわけでございます。たいへん私は感激をいたしておるわけであります。

おっしゃるように、原子力の平和利用については、どなたも反対をなさる方はないと思います。施政方針演説にも申し上げましたとおり、放射能汚染、あるいはまた公害、いうあたりに不安があるから反対なのだ、こういうことであろう。いままでのお会いして、反対をなさる方々のご意見を承っておりますとそうでございます。こうした問題につきましては、なるほど学者の一部の中には、放射能等について、なお多少の不安感と申しましょうか、そういったようなものをご意見を出しておられる方もあるようでございます。しかし、私が聞いておるところでは、大部分の学者は、いずれも、先般おいでいただきました宮永工学博士、亀田農学博士の所論と大体同じことでございます。私自身は、私自身といたしましては、武田議員のおっしゃるとおり、なるほど放射能等については出ますけれども、それはおっしゃるとおり、自然界の大気中にある放射能に比べれば、何十分の一だ、あるいは、海の中に、自然界に包蔵している自然の放射能に比べれば、何十分の一だというあたりで、これらは、私は公害はないと、こう自分自身では思っております。武田議員のほうからもご注意がございましたように、まあ反対なさる方々とはよくひとつ対談をして、不要な摩擦を避けるほうがいだろうというふうなご意見がございました。そのとおりだと思ひまして、そのような姿勢をとってまいってきておるわけでございます。したがって、知事のおっしゃるように、知事に対しては、何ら当市の意思表示はしておらないというあたりはそのとおりでございます。しかし、私は、ここまで皆さんから1年間研究をしていただき、また市民の皆さんからも実際に東海村等を現地もご視察をいただいております。学者の理論というのは、どの学者でありましても、ひとり原子力の学者だけではございませんが、あらゆる学者に言いえられますことは、学者というものは断定はなかなかいたしません。99パー

セントそうであったと思っても、そうであるといたしましても、それを断定的に「そうです」と、こうは言わないのが学者の常であります。その辺が、また、学者のいいところではないかと思えます。そういう点が、ともいたしますと、住民に不安感を抱かせるという結果にもなるのではなかろうかと思えます。ひとり物理学者だけではございません。経済学でありましても、経済理論でありましても、いずれも学者という者は断定をいたさないというのが、私の知っている学者の見解のようでございます。

そこで、おっしゃるようにタイミングが必要でございます。やはり仕事を成功させるかどうかというのは、タイミングの問題が1つあるかと思えます。そういう点で、議会の研究委員会でも近く研究の成果をご発表になるやに承っております。それらの研究の結果、皆さんが……いま武田議員は議会でも誘致せいという結論が出ている、議決が出ているという話がありましたけれども、これはまだ出ていないはずでございます。これから皆さんのほうで特別委員会、研究委員会の結果を皆さんがお聞きになっていただいて、そして議会としてどのような態度をとられますか、今後の問題であろうと思えます。私は演説の中でも、市民の皆さんからひとつできるだけ理解をしていただいて、そしてある程度の合意に達したところで誘致に踏み切りますと、こう申し上げておりますが、議会は市民の代表でございます。議会がご決議をいただくということになりますれば、市長といたしましては、当然議会の決議を尊重いたしまして行動に移るべきものであろう、これが民主政治ルールであろう、このように執行の立場にあります私は考えておるわけでございます。どうかそのようにご理解をいただきたいと思えます。

自衛隊のほうにつきましては、すでに議会のほうにおいて誘致決議をいただいておりますので、私もそうした気持ちでおるわけでございます。先般、前国会におきましては、防衛二法ですか、三法ですか通りませんでして、もちろん3次防の予算もあのときは通らなかったもので、この問題はしばらくさたやみになっておったわけでございます。今国会でも防衛二法が、いま提案されておるわけでございまして、これらはいま国会では、やはり重要な法案として、いろいろ重要法案がたくさん出ておりますが、そのうちの1つとして国会で審議をされる段階にございます。私どもは、よく国の情勢等をにらみあわせながら、柏崎市将来のために悔いのない、誤りのない処置をとるべきであらう、このように考えております。

以上、ご質問の趣旨には賛成でございますので、あえて蛇足になったようなきらいがございしますが、せっきくの機会でございますので、私の所信などをまじえながら、ご質問に答えたつもりでございますので、よろしくお願い申し上げます。